

第21回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成30年8月20日（月） 9：58－11：51

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、市川委員、倉本委員、竝木委員、藤井委員、山崎委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

行松審議官、須藤参事官、森参事官、山口参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課

藤吉課長

〃

宇宙利用推進室

倉田室長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

國中理事

〃

国際宇宙探査センター

佐々木センター長

4. 議事要旨

(1) 前回の議論の確認

事務局から、資料1及び資料2に基づき、前回の議論におけるポイント及び前回の議論を踏まえたプログラム化のイメージの修正について説明があった後、策定するプログラムについて以下が確認された。

- ・ 策定されたプログラムは基盤部会、政策委員会に報告、審議を経て我が国の国際宇宙探査の当面の方針として位置づけられることを前提としていること。
- ・ 策定するプログラムは、プログラム化が必要な当面の国際宇宙探査の領域を取り扱うこととして、第1章(3)のプログラム化の手段は、戦略中型等の従来の枠組みに加えて「海外（国際）プロジェクトへの参加」を加えていること。

また、委員から、「10年～20年後を見据えて」とあるが、10年は工程表がある。プログラム化は、もう少し長期的に、30年を見据えて検討するべきではないか、といった意見があった。

(2) プログラム化の考慮事項について

JAXAから、資料3に基づき、JAXAで検討している月・火星探査のプログラム化について説明があった後、プログラム化の対象と具体的内容について議論を行った。

小惑星探査の取り扱いについて議論があったが、小惑星には資源といった議論があり、念頭には置いているものの、当面は月・火星を対象として、小惑星は将来のプログラム化の議論の中で取り扱うこととしていくこととなった。また、また、人材育成についても長期的な議論事項であるので、引き続き議論していくこととなった。

委員から、以下のような意見等があった。

(○：質問・意見等)

- (米国では従来、月、火星、小惑星がフレキシブルに検討されていることを踏まえ)小惑星の取扱いはどう考えているのか。MMXのサンプルリターン技術をその先に科学探査に活かしていくときに、プログラム化の中ではなく、従来のロードマップのボトムアップの下での実施をしていくのか。
- 「資源」とはどのようなものか定義を明確にし、科学探査において「資源」をどう扱うか整理する必要はないか。
- プログラム化の具体的内容については、長期的な観点からプログラム化を検討するとあり、S L I M、MMXだけでは不十分。
- 宇宙科学分野は人材不足であり、倍増させる必要があり、どう人材を確保していくか議論していく必要である。
- 大学との連携について、研究者の流動とともに学生も宇宙科学分野に呼び込む仕組みが必要ではないか。

(2) プログラム化の考慮事項について

JAXAから、資料4に基づき、S L I M計画の見直しについて報告があった。

委員から、以下のような質問があった。

(○：質問 ●：JAXAからの回答)

- S L I M計画の予算枠に収まる変更なのか。
 - 公募型小型の枠に収まる変更である。
- 着陸目標地点についてコミュニティでの検討を踏まえたものか。
 - 着陸地点については、今回の公表によりコミュニティでの議論の俎上に上げることができたところである。

以 上